

平成 27 年 5 月 1 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520217

研究課題名(和文)『台湾愛国婦人』の資料的研究

研究課題名(英文)A Study on "The Taiwan Aikoku Fujin"

研究代表者

榎原 修 (Kashihara, Osamu)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：50132064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：雑誌『台湾愛国婦人』の全容解明に向けて資料調査を行った。すでに所在が確認されている巻の資料を収集した他、未発見の巻の発掘を目指した調査を行った。新たに発見した巻については雑誌に目次を公表するなどして報告した。また、掲載作品に関する内容的検討を行った。その結果、第61巻所載の与謝野晶子の詩「酒場の一夜」は、従来初出誌不明とされていた詩の初出であることが判明した。また、押川春浪の掲載作3点の分析も行い、これらが従来知られていなかった作品であることを示すとともに、その史的意義を指摘した。

研究成果の概要(英文)：We performed a document investigation to clarify the whole story of "The Taiwan Aikoku Fujin". We collected the articles placed in the volumes those were already found, and searched for the volumes those were not found yet. We discovered a volume newly, and reported that's table of contents on a journal.

And we researched on the matters inserted in the magazines. The results are as follows. 1. Akiko Yosano's poem "Sakaba no Ichiya" is the first form of an untitled poem of "Natsu kara Aki he" (No.97). 2. Shunro Oshikawa's 3 works on these magazines are unknown works in his bibliography. And Shimooka has argued on the historical meaning of these works.

研究分野：人文学

キーワード：台湾愛国婦人

1. 研究開始当初の背景

『台湾愛国婦人』は明治41年10月から大正5年3月までに全88冊が刊行された、愛国婦人会台湾支部の機関誌である。最も多い年(大正3年)で年間8万6175部が台湾島内に配布され(台湾総督府官房統計課『台湾総督府第13統計書～第20統計書』(明44・2～大6・1参照) 発刊から3年後の明治44年時には、広告を含めると300頁近くの分量を備えるなど、日本統治初期の台湾において相当な資金と人力をつぎ込んだメディアの一つであった。

本誌は「帝国」日本の植民地支配の実態を知るに重要な資料であるが、同時に内地の著名作家の作品が多く掲載されている点にも特徴がある。文芸欄の寄稿者として、広津柳浪・泉鏡花・伊藤左千夫・土屋文明・与謝野晶子・与謝野鉄幹・長谷川時雨・尾島菊子らの名が頻繁に見受けられ、同時代の内地の婦人雑誌と比較しても、全く見劣りしない執筆陣を擁していたと言える。しかしながら、掲載作品の多くは各作家の全集に未収録であったり、著作年譜に未記載であったりする状態であった。その意味で、日本近代文学研究の観点からも重要な雑誌であると考えられた。

しかし、本研究の申請時までには所在が確認されていたのは、全88冊のうちの半数に満たない状態であった。それまでに発見されている冊子については、上田正行「資料「台湾愛国婦人」文芸関係主要記事」(『中心から周縁へ 作品、作家への視覚』梧桐書院、平20・8) 下岡友加(本研究分担者)「雑誌『台湾愛国婦人』目録 大正四年一月から大正五年三月(廃刊)まで」(平19・12『広島女子大國文』第22号)等が報告を行っていたが、限られた冊数しか見つかっていなかったため、その全貌が容易にうかがえないだけでなく、この雑誌の存在自体が一般的にはほとんど知られていなかったというのが実状であった。

そのため、雑誌の探索によって本誌の全貌に近づくこと、内容面からの検討に着手することによって本誌研究の端緒を開くことが重要だと考えた。

2. 研究の目的

(1) 新たな資料を発掘・収集し、雑誌の全体像をより明確にすることを第一の目的とした。考え得るあらゆる手段を用いて未発見の巻を探索するとともに、すでに所在が知られていながら未見であった資料を手に入れ、できるだけ雑誌の全貌に迫る。

(2) 掲載内容の検討により、山地支配のあり方を中心とした「帝国」日本の植民地支配における婦人雑誌メディアの果たした役割について明らかにする。植民地のメディア研究においては、言論統制の厳しくなった、日中戦争以降から敗戦までに研究が集中しがちであるが、統治初期に出版された婦人雑誌を扱うことによって、総督府による統治初期のメディア利用のあり方を明らかにし、その後の方策の転換点や、不変であった点を浮き彫りにする。

(3) 文芸欄の検討により、内地作家の全集未収録作品、著作年譜未記載作品等を調査し、作品の翻刻、分析等を行う。新資料の発掘、公開によって、各作家の研究に益するとともに、各寄稿文(作品)の内容の精査によって、この時期の文学者たちの植民地に対する関与の仕方も含めて、彼ら/彼女らの作家としての再評価を行う。

3. 研究の方法

(1) 雑誌『台湾愛国婦人』の資料収集を行う。すでに所在が知られている資料については以下の通り。

日本国内に散在している資料については、山武市歴史民俗資料館等の公的機関、及び個人所有者の許可を得た上で資料の閲覧、複写、保存を行う。

また、台湾に渡航し、唯一まとまった形で

所蔵が確認されている国立中央図書館台湾分館（現・国立台湾図書館）所蔵資料の閲覧、複写、保存を行う。その際、既に公表されている目録に漏洩や誤りがないか確認を行う。訂正や補足すべき事項がある場合、新たに目録を作成し、公表する。

新たな資料の発掘のために、インターネットを活用して、国内外の図書館の蔵書目録等を検索し、可能性が少しでもあれば実際に調査する。また、台湾では、国立中央図書館台湾分館（現・国立台湾図書館）の他、各大学図書館、国家図書館、呉三連史料センター、国史館台湾文献館、中央研究院の所蔵確認を行う。あわせて、当時台湾支部の分局の置かれていた、台北・新竹・台中・台南・高雄・台東・花蓮・澎湖を中心とした各地の古書店・旧家での資料探索を行う。さらに発行元である台湾日日新報社の関係者に連絡を取り、本誌についての情報や所蔵の有無を確認する。

（２）日本の植民地支配における婦人雑誌メディアの果たした役割について明らかにするために、同時代台湾の主要メディアである『台湾日日新報』、『台湾時報』等の言説にも目配りしながら、雑誌の掲載記事内容と他メディアの伝達内容との差異の有無を確認する。統治初期、台湾総督府にとって最も大きな課題であった「山地討伐事業」については、その過程を記した『理番誌稿』等の記述も参照しながら、雑誌において繰り返し与えられた情報、反対に伝達されなかった情報を明らかにしていく。植民者のメディア利用、言語統制の在り方、女性団体と政治の関係については歴史研究の蓄積や最新の成果を取り入れながら雑誌に展開された内容の検討を行う。

（３）内地 作家の全集未収録作品、著作年譜未記載作品等の調査・分析においては、『日本近代文学大事典』、『昭和女子大学近代文学研究叢書』、『新研究資料 現代日本文学』の他、各作家全集、各作家の事典、著作

目録、先行論文等を参照し、全集未収録資料、著作年譜未記載資料を明らかにする。新資料については、翻刻の上、資料的意義・価値を考察した上で、資料紹介、或いは口頭発表や論文化によって、関係学会及び学術雑誌において公表する。

４．研究成果

『台湾愛国婦人』は、資料的に重要な雑誌であるにもかかわらず、かなりの部分が失われており、本研究の申請時に所在が確認できたのは全 88 巻のうち半数に満たない状態であった。そこで、本研究ではまず新たな資料を発掘・收拾し、雑誌の全体像をより明確にすることを第一の目的とした。実は、本研究の申請時から開始時まで間に、本研究の研究分担者である下岡友加が函館市中央図書館に 29 冊所蔵されていることを発見し、うち 13 冊分の目次を雑誌で報告している（『近代文学試論』49 号）。これ自体は期間外の業績であり本研究の実績にはカウント出来ないが、こうした成果を踏まえてさらに欠落部分を埋めて行こうと努めた。その結果であるが、完本として見つかったのは、財団法人半線文教基金会台湾文化資料館から国史館台湾文献館に寄託されている第 61 巻のみであった（これについても下岡が雑誌に報告している）。この他、台湾在住の陳慶芳氏が第 63 巻を所蔵していることを確認したが、これは他の館でも所蔵されており、すでに報告もなされているものであった。この他には断片的な資料にしか出会えなかったが、現段階で可能な調査は尽くしたと考える。

また、本研究とは別に、國學院大學の上田正行氏（現・名誉教授）を中心とした研究グループによって確認された巻もあった結果、現在では全 88 冊中 52 冊の所在が明らかになっている。

次に内容的検討であるが、下岡は第 61 巻所載の与謝野晶子の詩「酒場の一夜」を紹介し、これが単行本『夏から秋へ』で初出誌不

明とされていた詩3編のうちの1編であることを示すとともに、他の2編も未発見の『台湾愛国婦人』に掲載されていた可能性を指摘した他、本誌における晶子の活動を整理した。また、押川春浪の掲載作3点の分析も行い、これらが従来知られていなかった作品であることを示すとともに、彼自身には未知であった台湾を舞台にした「蕃社の悲劇」といった作品を創作することによって台湾在住の後続にも影響を与えて、台湾をよく知る者自身に台湾の文学表象をなさしめる契機になったことを指摘した。このように、本誌の歴史的・文学史的重要性の一端が明らかにされた。

なお、榎原は英塘翠（西岡英夫）の「生蕃おとぎ噺」の連載を対象に、台湾総督府蕃族調査会が採集した伝説との比較によって西岡の「原住民」表象の特徴を明らかにするとともに、後年の佐藤春夫や中村地平との差異を分析することで時代的变化を明らかにするべく検討を進めたが、未だ十分な結論を得るに至っていない。

本研究とともに、上田正行氏らのグループによる報告書も出た結果、本誌の存在は広く知られるようになった。下岡の許には、与謝野晶子研究者や尾島菊子研究者らからの問い合わせも相次いでおり、本誌の重要性も認識されてきているといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

下岡 友加、押川春浪と『台湾愛国婦人』 - 掲載小説の検討を中心に -、國學院大學文学部共同研究報告書『台湾愛国婦人』の研究～本文篇・研究篇、査読無、巻無し、2015、pp.403-417

下岡 友加、新資料『台湾愛国婦人』第六十一巻 - 与謝野晶子と雑誌の関わりを中心に -、日本研究、査読有、27巻、2014、pp.23-34

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00036953>

〔学会発表〕(計 1 件)

下岡 友加、押川春浪と雑誌『台湾愛国婦人』、台湾史研究会定例研究会、2014年10月25日、関西大学(大阪府・吹田市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

榎原 修 (KASHIHARA OSAMU)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号：50132064

(2)研究分担者

下岡 友加 (SHIMOOKA YUKA)

県立広島大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：30548813